

⑨ 中高 国語科問題の解答について (注意)

- 1. 解答はすべて、別紙のマークシートに記入すること。
- 2. マークシートは、電算処理するので、折り曲げたり、汚したりしないこと。また、マーク欄はもちろん、余白にも不要なことを書かないこと。
- 3. 記入は、HBまたはBの鉛筆を使って、ていねいに正しく行うこと。(マークシート右上の記入方法を参照) 消去は、プラスチック消しゴムで念入りに行うこと。
- 4. 名前の記入 名前を記入すること。
- 5. 教科名の記入 教科名に「国語」と記入すること。
- 6. 受験番号の記入 受験番号欄に5けたの数で記入したのち、それをマークすること。
- 7. 解答の記入
ア. 小問の解答番号は1から46までの通し番号になっており、例えば、25番を 25 のように表示してある。
イ. マークシートのマーク欄は、すべて1から0まで10通りあるが、各小問の選択肢は必ずしも10通りあるとは限らないので注意すること。
ウ. どの小問も、選択肢には①、②、③……の番号がついている。
エ. 各問いに対して一つずつマークすること。

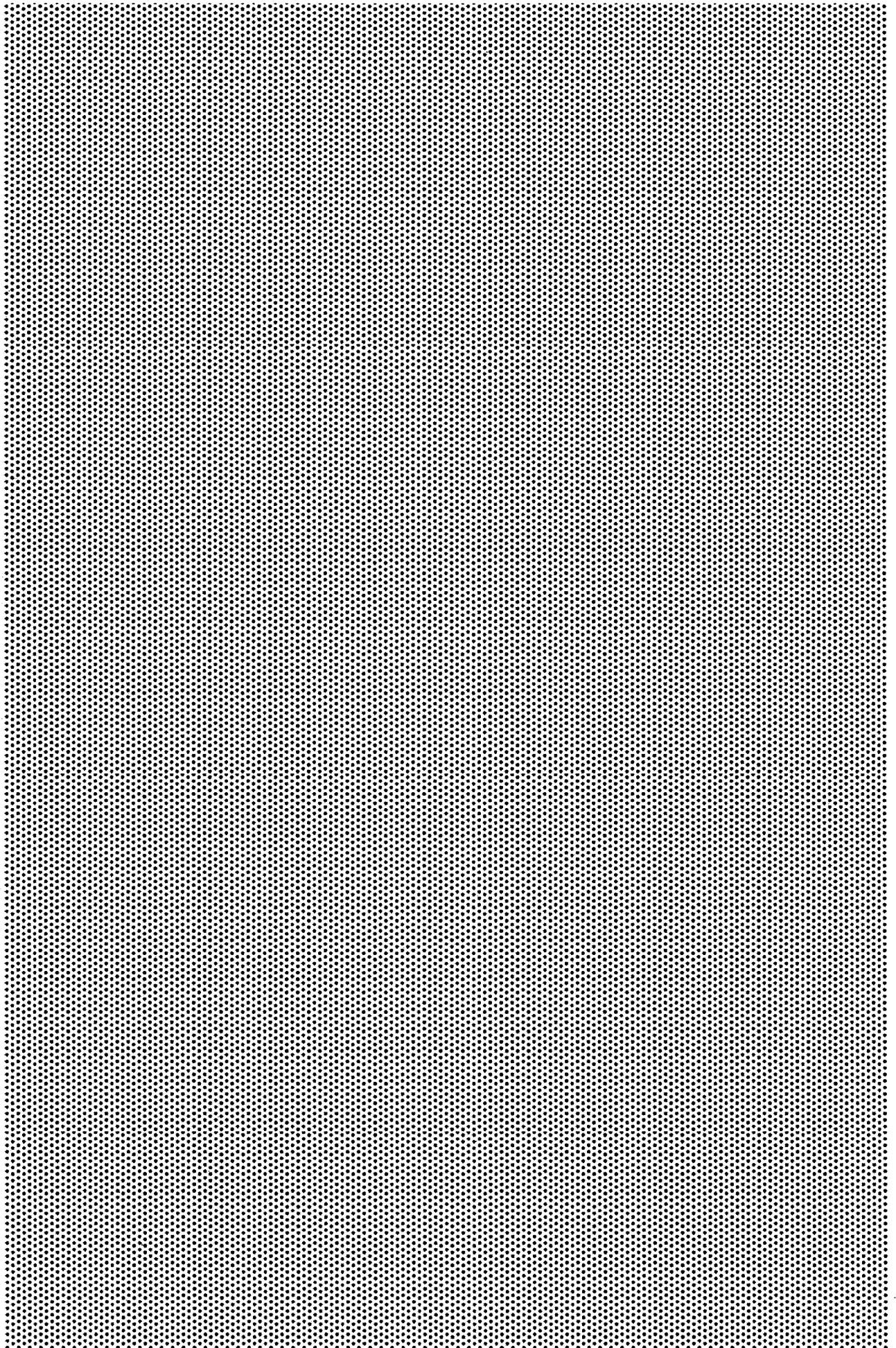
(マークシート記入例)

フリガナ	コウベ タロウ
名 前	神戸 太郎

教科名	国語
-----	----

数字で記入……

受験番号					小問 番号	解答記入欄 1 - 25										小問 番号	解答記入欄 26 - 50										小問 番号	解答																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
1	2	3	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



【1】 次の問いに答えよ。

(1) 「小学校(中学校)学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」(平成29年7月 文部科学省)における「第2章 道徳教育の目標」に関する記述のうち、内容が適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。なお、文中に「児童」とあるのは、中学校・特別支援学校中等部では「生徒」に読み替えなさい。

- ① 学校における道徳教育は、児童の発達の段階を踏まえて行われなければならない。その際、多くの児童がその発達の段階に達するとされる年齢は目安として考えられるものであるが、児童一人一人は違う個性をもった個人であるため、それぞれ能力・適性、興味・関心、性格等の特性等は異なっていることにも意を用いる必要がある。
- ② 特別活動における学級や学校生活における集団活動や体験的な活動は、日常生活における道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場であり、道徳教育において果たす役割は大きい。
- ③ 道徳科の中で道徳的価値の理解のための指導を行う際には、特定の道徳的価値を絶対的なものとして指導したり、本来実感を伴って理解すべき道徳的価値のよさや大切さを観念的に理解させたりする学習に終始することのないように配慮することが大切である。
- ④ 道徳的判断力は、道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のことである。人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情であるとも言える。的確な道徳的判断力をもつことによって、それぞれの場面において機に応じた道徳的行為が可能になる。
- ⑤ 道徳性の諸様相には、特に序列や段階があるということではない。一人一人の児童が道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め(*中学校では「人間としての生き方について深く考え」)、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味している。

- (2) 次の文は、「小学校(中学校)学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」(平成29年7月 文部科学省)における「第5章 道徳科の評価」に関する記述の一部である。(ア)～(ウ)にあてはまる適切な語句の組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。なお、文中に「児童」とあるのは、中学校・特別支援学校中等部では「生徒」に読み替えなさい。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育における評価については、教師が児童一人一人の人間的な成長を(ア)、児童自身の自己のよりよい生き方を求めていく(イ)を評価し、それを勇気付ける働きをもつようにすることが求められる。そして、それは教師と児童の温かな(ウ)な触れ合いに基づいて、共感的に理解されるべきものである。

- | | | | | | | |
|---|---|-----|---|----|---|-----|
| ① | ア | 見守り | イ | 努力 | ウ | 人格的 |
| ② | ア | 見守り | イ | 態度 | ウ | 情緒的 |
| ③ | ア | 支援し | イ | 態度 | ウ | 人格的 |
| ④ | ア | 支援し | イ | 努力 | ウ | 人格的 |
| ⑤ | ア | 支援し | イ | 努力 | ウ | 情緒的 |

- (3) 次の文は、「小学校（中学校）学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成29年7月 文部科学省）における「第3章 道徳科の内容」に関する記述の一部である。（ア）～（エ）にあてはまる適切な語句の組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

[小学校]

[友情、信頼]

[第1学年及び第2学年]

友達と仲よくし、（ア）こと。

[第3学年及び第4学年]

友達と互いに（イ），信頼し、（ア）こと。

[第5学年及び第6学年]

友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても（イ）ながら、（ウ）を築いていくこと。

[中学校]

[友情、信頼]

友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや（エ）も経験しながら（ウ）を深めていくこと。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|----|
| ① | ア | 助け合う | イ | 話し合い | ウ | 人間関係 | エ | 対立 |
| ② | ア | 助け合う | イ | 理解し | ウ | 人間関係 | エ | 葛藤 |
| ③ | ア | 助け合う | イ | 話し合い | ウ | 友人関係 | エ | 葛藤 |
| ④ | ア | 協力する | イ | 理解し | ウ | 友人関係 | エ | 対立 |
| ⑤ | ア | 協力する | イ | 話し合い | ウ | 人間関係 | エ | 対立 |

【2】

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（設問の都合上原文の一部を改編した。）

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

一 二重傍線部 a「恣意的」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① 深く考えること
- ② 損得を考えること
- ③ 何でも疑ってみること
- ④ 論理的に正しく判断すること
- ⑤ 勝手気ままに決めていること

二 カタカナで書かれた二重傍線部 b d の漢字と同じ漢字を含むものとして最も適当なものを、各群の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

b 「バイタイ」

- ① 投資の利益がバイガクになる。
- ② 不動産がバイシユウされる。
- ③ 結婚式でバイシヤク人を務める。
- ④ けがをさせてバイシヨウをする。
- ⑤ 実験の結果バイヨウに成功する。

c 「テイキ」

- ① 乗降口がテイシヨウのバスに乗る。
- ② テイシヨクに就くことを目標にする。
- ③ 自分の信条にテイシヨクする行為だ。
- ④ 停戦のための会議をテイシヨウする。
- ⑤ 敵や相手の動きをテイサツする。

d 「ヒョウリユウ」

- ① 夏休みに昆虫のヒョウホンをする。
- ② ヒョウハク剤を使つて汚れを落とす。
- ③ 彼はヒョウロン家のような言い方だ。
- ④ 要求が簡単に通つてヒョウシ抜けした。
- ⑤ 地面がヒョウガにおおわれていた時代があった。

三 文中の空欄 I に入る語の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- | | | | | | | |
|---|---|------|----|------|-----|------|
| ① | I | ところで | II | しかし | III | 一方で |
| ② | I | しかし | II | ところで | III | 一方で |
| ③ | I | 一方で | II | しかし | III | ところで |
| ④ | I | しかし | II | 一方で | III | ところで |
| ⑤ | I | ところで | II | 一方で | III | しかし |

四 傍線部A「探究とは、より本質的な問いとの出会いである」とあるが、筆者が取り組んだ探究として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① オノマトペとは何かという問いから始まり、オノマトペの性質や役割を明らかにしたこと。
- ② オノマトペとは何かという問いから、「言語」とは何かということを考察するに至ったこと。
- ③ エベレストの山頂を目指して山登りを始めたが、難所を越えたり、ルートを開拓したりしたこと。
- ④ 言語進化の過程では、多くのことばが「オノマトベ性」を薄め、身体性を持つことに気づいたこと。
- ⑤ オノマトペは直接に身体につながっているのか、そもそも身体性とは何かと疑問を持つこと。

9

五 傍線部B「言語の身体性」とあるが、それはどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① 初期の人工知能(AI)の時代から、言語は人間の知識の実装をする際の単位として単純な概念を表すこと。
- ② ことばが単独でバラバラに存在しているわけではなく、互いに関係づけられた巨大なシステムになっていること。
- ③ コミュニケーションの道具としての言語に用いられる記号の体系は人間の感覚などに起因する場合があること。
- ④ 辞書を通じて接地した言語とのつながりがあれば、感覚に接地していない外国語の記号を理解することが可能なこと。
- ⑤ 言語は記号であるから、物理的な実体がない「愛」についても、機械は言語処理システムで意味を理解していること。

10

六 本文には次の一文が抜けている。この文を戻す箇所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

このような言語の二面性は、どのような道筋をたどれば可能になるのだろうか？

- ① (い)
- ② (ろ)
- ③ (は)
- ④ (に)
- ⑤ (ほ)

11

七 傍線部C「オノマトペの存在自体が、この見解への挑戦である」についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① オノマトペは、言語であると同時に、言語には身体とのつながりを持つものがあること。
- ② オノマトペは、こどもがモノを識別し、ことばを覚える際の手掛かりになるということ。
- ③ オノマトペは、単純な概念を表す記号ではあるが、複雑な概念も作り出すということ。
- ④ オノマトペは、「感覚に接地」しており、「記号接地問題」の解決の糸口になるということ。
- ⑤ オノマトペは、一般語と同じように音声で表現され、聴覚で処理されるということ。

12

八 この文章の構成に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① この文章は、序盤でオノマトペが身体性を持つことを主張し、中盤でそのことについて「記号接地問題」から具体的な根拠を取り入れて説明し、終盤でオノマトペが「身体的」であると結論付けている。
- ② この文章は、序盤で言語進化の過程でことばの「オノマトペ性」が薄まった背景を述べ、中盤でA Iの言語理解の進化の過程と比較して説明し、終盤で最初の身体に接地されたことばの正体を結論付けている。
- ③ この文章は、序盤でオノマトペ以外の普通のことばと身体性の関連について疑問を持ち、中盤で言語の身体性について具体例を挙げて説明し、終盤で言語習得や言語進化へと本質的な問いに変化させている。
- ④ この文章は、序盤で初期の人工知能(AI)についての歴史的な研究意義を述べ、中盤で子どもと機械のことばの理解についての差異を説明し、終盤でAIの言語習得メカニズムを構築した成果を述べている。
- ⑤ この文章は、序盤で言語の本質を研究してきた成果について述べ、中盤でどのような方法で研究を進めてきたのかを説明し、終盤で新しいことばの習得について明らかになったことを強調して述べている。

13

九 傍線部D「本当に大事なものは、これ以降の詳細である」とはどういうことか。最も適当なものを、次の

①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① 人工知能の語釈に身体性を持たせることができるかどうかを検討するために、ことばの意味を複数の辞書の語釈を用いて学習させる研究を継続していくこと。
- ② 直接的な身体経験がないと、永遠に続くメリーゴーランドに乗り続ける状態のように、ことばの意味は全く理解できないということをより分かりやすく説明すること。
- ③ 外国語を外国語で理解する場合、身近にある簡単なことばを覚えていくことで、徐々に難しい抽象概念のことばを理解できるということを、証明しようと試みること。
- ④ オノマトペは、身体に接地した最初の一群のことばとなるため、それ以降の言語習得に大きな影響を及ぼすということに加え、今後もその研究に挑もうとしていること。
- ⑤ 新たなことばを覚えていくことは、身体につながることはある程度あれば、関連して獲得することが可能である、という知見に基づいて考察したいということ。

14

十 次の文章は、波線部Aの「理解」と波線部Iの「理解」の差異について筆者の考えを生徒が説明した文章である。 に入る文として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

【生徒が説明した文章】

Aの「理解」は、「愛」という言葉の意味を知らなくても、子どもは家庭などで優しい言葉を掛けられ
たり大切に抱っこされたりすることなどの「経験」を通して「愛」を感覚的に感じ取る「理解」です。一
方で、Iの「理解」は、辞書に書かれた「愛」の意味や定義を大量に読み込んで整理することはできる
が、それは「経験」としての「愛」を「理解」したことはありません。つまり、

- ① Iの「理解」のように言葉の意味を整理することさえできれば、「経験」がなくても、Aの「理解」につながると言えます。
- ② Iの「理解」は言葉の意味を操作するだけであり、Aの「経験」に根ざした「理解」とは異なると言えます。
- ③ Aの「経験」を通した「理解」と、Iの「理解」のように言葉の意味を学ぶことの違いに着目することが大切です。
- ④ Aの「経験」を通した「理解」の方が、Iの辞書的な「理解」よりも、意味を正しく理解できたことになります。
- ⑤ 辞書などで言葉の意味を調べることをしなくても、Aのような「経験」を通した「理解」だけで、十分に理解したと言えます。

15

十一 次の文章は、ある生徒が本文を読んだ感想文の一部である。表現の修正に向けた教師の助言として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

【生徒の感想文の一部】

この文章を読んで、私が印象に残ったことは二つある。一つは、私たちが普段何気なく使っているオノマトベから言語の本質を探究しようとする事だ。私も身近な事ばについて、深く考えてみようと思った。私がもう一つ印象に残ったところは、子どもが「愛」の意味を理解すること、機械が「愛」の意味を理解することの違いについての射ていると思った。私は今まで、英単語を繰り返し書いて覚えて理解しようとしていたけど、感覚や感情と一緒に becoming ことが理解されていくと書いてあったので、やり方を変えようと思った。

- ① 主語と述語にねじれがあるので、二つの文に分けましょう。
- ② 感想文ですので、常体ではなくて、敬体で書くようにしましょう。
- ③ 同じ意味の言葉を繰り返し使っているので、別の言い方も調べてみましょう。
- ④ 本文から引用していることと、自分の感想を分けて書きましょう。
- ⑤ 自分の経験は本文の内容と関係ないので、結び付けずに書きましょう。

【3】 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

折節のうつりかはるこそ、ものごとにあはれなれ。

「もののあはれは秋こそまされ」と人ごとにいふめれど、それもさるものにて、今一きは心もうきたつものは、春の気色にこそあめれ。鳥の声などもことの外に春めきて、のどやかなる日影に、^Ⅲ 塙根の草萌えいづるころより、やや春ふかく霞みわたりて、花もやうやう気色だつほどこそあれ、折しも雨風うちつづきて、心あわたたしく散り過ぎぬ。青葉になり行くまで、よろづにただ心をのみぞ悩ます。花橘は名にこそ負へれ、なほ梅の匂ひにぞ、いにしへの事も立ちかへり恋しう思ひ出でらる。山吹のきよげに、藤のおぼつかなきさましたる、すべて、思ひ捨てがたきこと多し。

「灌仏の比、祭の比、若葉の、稍涼しげに茂りゆくほどこそ、世のあはれも、人の恋しさもまされ」と人のおほせられしこそ、げにさるものなれ。五月、あやめふく比、^Ⅰ 早苗とるころ、^Ⅱ 水鶏のたたくなど、心ほそからぬかは。六月の比、あやしき家に夕顔の白く見えて、蚊遣火ふすぶるもあはれなり。^Ⅲ 六月祓又をかし。七夕まつるこそなまめかしけれ。やうやう夜寒になるほど、雁鳴きてくるころ、萩の下葉色づくほど、早稲田刈り干すなど、とり集めたる事は秋のみぞ多かる。又、野分の朝こそをかしけれ。

言ひつづくれば、みな源氏物語・枕草子などにことふりにたれど、同じ事、又今さらに言はじにもあらず。おほしき事言はぬは腹ふくるるわざなれば、筆にまかせつつ、あぢきなきさびにて、かつ破り捨つべき物なれば、人の見るべきにもあらず。

さて冬枯の気色こそ秋にはをさをさおとるまじけれ。汀の草に紅葉の散りとどまりて、霜いと白う置ける朝、遣水より烟の立つこそをかしけれ。年の暮れはてて、人ごとに急ぎあへる比ぞ、^Ⅰ 又なくあはれなる。すさまじきものにして見る人もなき月の、寒けく澄める廿日あまりの空こそ、心ほそきものなれ。御仏名・荷前の使たつなどぞ、^Ⅱ あはれにやんごとなき。公事どもしげく、春のいそぎにとりかさねて催しおこなはるるさまぞいみじきや。追儺より四方拝につづくこそ面白けれ。つごもりの夜、いたう暗きに、松どもとして、夜半過ぐるまで人の門たたき、走りありきて、何事にかあらん、ことごとしくのしりて、足を空に惑ふが、暁がたより、さすがに音なくなりぬるこそ、年の名残も心ほそけれ。なき人の来る夜とて魂まつるわざは、この比都にはなきを、東のかたには、なほする事にてありしこそあはれなりしか。^Ⅲ

かくて明けゆく空の気色、昨日に変わるとは見えねど、ひきかへめづらしき心地ぞする。大路のさま、松立てわたしてはなやかにうれしげなるこそ、またあはれなれ。^Ⅳ

著作権保護の
観点から掲載
いたしません。

著作権保護の
観点から掲載
いたしません。

一 傍線部ア「めれ」、イ「らるる」の文法的意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① 受身 ② 推定 ③ 尊敬 ④ 可能 ⑤ 自発

ア
17
イ
18

二 傍線部ウ「思ひ捨て」、カ「なる」の活用と活用形の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① 四段活用・終止形 ② 四段活用・連体形 ③ 下二段活用・未然形
- ④ 下二段活用・連用形 ⑤ ラ行変格活用・連体形

ウ
19
カ
20

三 傍線部エ「おはせ」、オ「まつる」の主語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① 作者 ② 使者 ③ 死者 ④ 貴人 ⑤ 世人

エ
21
オ
22

四 傍線部①「心ほそからぬかは」の現代語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① 切なくなることなどない。
- ② 不安にならないことなどあろうか。
- ③ 不安になったことなどない。
- ④ 心さびしくないことなどあろうか。
- ⑤ 心さびしかったことなどない。

五 傍線部②「人の見るべきにもあらず」の理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① この文章は、『源氏物語』や『枕草子』を読んだ感想がただ書かれただけのものだから。
- ② この文章は、多くの人が感じる季節の感慨を筆者が改めて整理しただけのものだから。
- ③ この文章は、人が理解しがたいような独特な感性で季節の美しさを捉えたものだから。
- ④ この文章は、自己満足のために筆に任せて他人の意見をまとめただけのものだから。
- ⑤ この文章は、日々の何気なく起こる出来事を手慰みに雑紙に綴っただけのものだから。

24

六 傍線部③「ひきかへめづらしき心地ぞする」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① 夜明けの空色はいつでも変わらず美しいものである。
- ② 初日の出は前日の空色と変わらないが、新鮮な心持ちになる。
- ③ 初日の出は前日の空色とは異なり、厳かで静かな心地がする。
- ④ 元旦は前日の空色とは異なり、ゆえに特別なものである。
- ⑤ 元旦は普段の夜明けとはうって変わって美しいものである。

25

七 傍線部Ⅰ～Ⅴ「あはれなり」のそれぞれの内容について具体的に説明したものととして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。なお傍線部Ⅰ～Ⅴ「あはれなり」は本文中では活用している。

- ① Ⅰ・Ⅱには、古いものに価値を見出す美意識が含まれている。
- ② Ⅱ・Ⅳには、失われ消えゆくものへの慈愛が込められている。
- ③ Ⅲには、年末の寒月の中に立つ勅使への敬愛が込められている。
- ④ Ⅲ・Ⅴには、厳粛さの中にある静穏への賞賛が含まれている。
- ⑤ Ⅴには、季節にまつわる作者の感興の念が込められている。

26

八 本作品の題名として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① 和泉式部日記
- ② おくのはそ道
- ③ 土佐日記
- ④ 紫式部日記
- ⑤ 徒然草

27

【4】 次の漢文を読んで、後の問いに答えよ。(設問の都合で一部訓点を省略している。一部、漢字を新字体に変更している。)

吳起^ル為^ニ魏^ノ武侯^ノ西河^ノ之^ノ守^ト。秦^ニ有^{リテ}小^ノ亭^一臨^ム境^ニ、吳起^ス欲^ス攻^メ之^ヲ、不^レ去^ラ則^チ甚^ス害^ス田^者、去^{ルニハ}之^ヲ則^チ不^レ足^ラ以^テ徵^{スルニ}甲^兵。於^{イテ}是^ニ乃^ハ倚^{よセテ}一^ノ車^一轅^ヲ於^ニ北門^一之^ノ外^ニ、而^{シテ}令^ニ之^ク曰^ク、有^{ラバ}能^ク徙^ス此^ヲ南^ニ門^一之^ノ外^ニ者^上、賜^ニ之^ニ上^ト田^一上^ト宅^一。人^シ莫^シ之^ヲ徙^{スモノ}也。及^ニ有^レ徙之^者、還^{シテ}賜^ニ之^ニ如^ク令^ノ。俄^ニ又^{キテ}置^ニ一^ノ石^一赤^{セキ}菽^{シユクヲ}東^ニ門^一之^ノ外^ニ、而^{シテ}令^ニ之^ク曰^ク、有^{ラバ}能^ク徙^ス此^ヲ於^ニ西^ニ門^一之^ノ外^ニ者^上、賜^ニ之^ニ如^ク初^メ。人^{ヒテ}爭^ス徙^ス之^ヲ。乃^チ下^{シテ}令^ニ曰^ク、明日^一且^ニ攻^メ亭^一、有^{ラバ}能^ク先^{スル}登^ス者^一、任^ジ之^ヲ国^ニ大^ニ夫^一、賜^ニ之^ニ上^{ヘムトニ}田^一宅^一。人^{ヒテ}爭^ス趨^ス之^ヲ。於^{イテ}是^ニ攻^メ亭^一、一^{ニシテ}朝^一而^{シテ}拔^ク之^ヲ。

〔韓非子〕から

著作権保護の
観点から掲載
いたしません。

一 二重傍線部 a、c の読み方として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- | | | | | | |
|---|--------|---------|--------|--------|---------|
| a | ① やや | ② いくばくか | ③ かえって | ④ はなはだ | ⑤ おもえらく |
| b | ① ひさしく | ② およびに | ③ すなわち | ④ このごろ | ⑤ なんぞ |
| c | ① もって | ② われ | ③ つねに | ④ よりて | ⑤ にわかに |

a	28	b	29	c	30
---	----	---	----	---	----

二 傍線部 A 「去^{ルニハ}之則不^レ足^ヲ以^ニ徴^{スルニ}甲兵^ニ」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① 砦を攻撃するための兵士が足りず、呉起を追放できなかった。
- ② 呉起は立ち去るときに、武装した兵士の不足分をかき集めた。
- ③ 秦の砦を撤去するのは、わざわざ徴兵するほどのことではなかった。
- ④ 秦の砦から立ち去った兵士の不足分は、徴兵しても補いきれなかった。
- ⑤ 砦から秦兵を追いつために、数えきれないほどの兵士が集まってきた。

31

三 傍線部 B 「有^{ハバ}能^{ハク}徙^ス此南門之外^ニ者^上、賜^{めたへん}之上^ニ田上宅^ト」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① 南門の外に移住できた人々は、良い田畑や良い邸宅を貢物として献上しなさい。
- ② 南門の外に引越せたならば、良い田畑や良い邸宅を与えられたことであろうに。
- ③ この南門以外に移動させられるものがあるなら、良い田畑や良い邸宅に使ってよい。
- ④ これを南門の外まで運ぶことができた者があれば、良い田畑や良い屋敷を与えよう。
- ⑤ 南門の外に兵士を移動させられた者に対して、良い田畑や良い邸宅を提供しなさい。

32

四 傍線部 C 「及有徙^ス之者^上、還賜^ニ之如^ニ令^ト」が「之を徙す者有るに及びて、還つて之に賜ふること令の如くす。」と読めるよう返り点と送り仮名を施したものととして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① 及^レ有^ニ徙^ス之者^上、還賜^ニ之如^ニ令^ト
- ② 及^レ有^ニ徙^ス之者^上、還賜^ニ之如^ニ令^ト
- ③ 及^レ有^ニ徙^ス之者^上、還賜^ニ之如^ニ令^ト
- ④ 及^レ有^ニ徙^ス之者^上、還賜^ニ之如^ニ令^ト
- ⑤ 及^レ有^ニ徙^ス之者^上、還賜^ニ之如^ニ令^ト

33

五 傍線部 D 「人争^{ヒテ}徙^ス之^ヲ」の理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① 多くの人々が呉起の命令は信頼ならないと気づいていたから。
- ② 命令通りに早く仕事をしないと自身の土地や家を奪われるから。
- ③ 命令に従えば提示された通りの褒美が得られるとわかったから。
- ④ 石を西門の外に運ぶことで戦争の手柄が立てられると聞いたから。
- ⑤ 戦争が間近に迫っており人々は一刻も早く逃げる必要があったから。

34

六 本文の趣旨と合致しているものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① 富や権力を人より多く手に入れたいと思う者たちによって、しばしば争いが起こる。
- ② 戦争で相手を圧倒し、攻略するためには、方角ごとの地勢を見極める必要がある。
- ③ 兵士を動員するため人々の生活基盤を整えたこの逸話は、模範とすべきものである。
- ④ 人々を効率的に動かすには、彼らの心理を理解し、掌握しておくことが大切である。
- ⑤ 戦争時、人々は何より田畑や家を守りたいと思うことを、為政者は理解すべきである。

【5】 次の問いに答えよ。

一 次は、「中学校学習指導要領解説 国語編」(平成二十九年七月 文部科学省)における「第3章 各学年の内容 第1節 第1学年の内容 2 (思考力、判断力、表現力等) A 話すこと・聞くこと」に関する記述の一部である。文章中の空欄(A)・(C)に当てはまる語句の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

第1学年

イ 互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う活動。

感じたことや考えたことを伝えるなどして話し合う言語活動を例示している。少人数で話し合う活動の形態としては、(A)やグループでの協議など、多様な形態が考えられる。生徒同士の話し合いのほか、指導のねらいに応じて、教師と生徒との(A)も考えられる。

少人数での話し合いは、多人数の場合に比べて、一人一人の参加者が(B)する機会が多くなるとともに、話し手と聞き手との距離が近く、聞き手の反応を捉えながら話しやすいという特徴をもつ。また、話し合いの(C)や進め方などを共有しやすいなどの利点がある。

入学後の環境の変化や新しい人間関係の中で、話し合いを円滑に進めるために、少人数で話し合うことの特徴や利点を生かすことが大切である。

話し合う言語活動は、他教科等においても取り入れられることが多いため、それらの言語活動との連携が求められる。

- | | | | |
|---|------|------|------|
| ① | A 対話 | B 発言 | C 目的 |
| ② | A 会話 | B 発表 | C 方法 |
| ③ | A 討論 | B 発言 | C 内容 |
| ④ | A 対話 | B 発表 | C 目的 |
| ⑤ | A 会話 | B 質問 | C 方法 |

二 次の話合いは、中学三年生の十一月の話合い活動の様子である。

今まで、この学級は話し合いを大切にしながら、学級の課題を解決し、学習や行事に取り組んできた。今回は、この時期に学級での生活上の課題などを解決して、どのように生活していくかについて話し合っている。これを読んで、後の問いに答えよ。

① 石村
(司会)

今日は、大きな行事だった合唱コンクールも終わり、学級全体が進路決定という個人の活動に向いていく時期に、学級目標である「思いやりの心」をどのように実現していけば良いかについて話し合いたいと思います。この議題は、学級で話し合ってほしいことを入れる「議題箱」にあったものから、学級委員で協議して選びました。

② 山浦

私は、この議題に賛成です。(A) これからは皆が自分の進路を決めるために自分のことで一生懸命になり、学級全体のことを考える余裕がなくなる時期だからです。せっかく協力して思いやりのある学級を作ってきたので、今考えることは大切だと思います。

③ 小川

私も賛成です。今まで皆で思いやりを大切にして、良い学級を作ってきたのに、この頃自分のことしか考えないような雰囲気が出てきています。全員が進路を決定するために頑張れる学級を作っていくためにどうすれば良いかを考えたいと思います。

④ 石村
(司会)

話し合うことに賛成の意見が出ましたが、この議題で話し合うことでいいですか。(全員がうなずく)

⑤ 原

では、現在の学級の問題点を出していきたいと思います。
提案です。問題点を全体で出し合うより班で話し合ってから出し合ったらどうでしょうか。また、その問題点を解決するための方法も考えると、多くの意見が出ると思います。(賛成の声が出る)

⑥ 石村
(司会)

(B)、班になって、「現在の問題点」と「解決策」を出してください。話し合った後、各班から発表してもらいます。

(班で話し合った後、全体で発表し合う)

⑦ 飯島
(二班)

一班では、問題点は「皆の心が自分のことでいっぱいになり、掃除をさぼるなど学級のことを考えられなくなっていることが心配」という意見が出ました。解決策としては、「今までどおり、他の人や学級全体のことを考えて毎日を過ごすことが大切ではないか」で、具体的には「挨拶をし合う」という意見が出ました。

⑧ 遠藤
(二班)

二班では、一班と同じような問題点ですが、「今までのように団結することが難しくなっている」「自分のことしか考えず、授業に真面目に取り組まない人がいる」ことがあがりました。解決策として、「今までどおりの学級の仕事などを当たり前にしていきたい」「まとまるためにレクリエーションをしたらどうか」という意見が出ました。

⑨ 野口
(三班)

三班では、「まとまりがなくなってきた」「自分の仕事をしない人がいる」ことがあがりました。解決策としては、担任の先生の「受験は団体戦だからみんなで乗り越えよう」という言葉を大切にして、お互いに思いやり、励まし合い、最後は皆で最高の卒

業式を迎えられれば良いという意見が出ました。

(このあと他の班からも発表を行い、記録係が黒板にまとめた)

10 石村
(司会)

各班から発表をしてもらいましたが、問題点として、まとまりがなくなってきた、授業に真面目に取り組まない、自分の仕事をしない人がある、などが出ました。解決策としては、学級全体のことを考える、挨拶をし合う、今までどおり学級での掃除や仕事などをしっかりする、レクリエーションをする、という意見が出ました。また、三年生として良い卒業式をできるようにしようということも出ました。良い卒業式を迎えるためのことについては次の機会に考えることにして、「今の時期にどうするかについて」全体で話し合うことが必要だと思います。意見を出してください。

11 飯島
(一班)

一班ですが、人のことが考えられなくなっているのが心配だという意見が出ましたので、今までどおり、学級に必要な仕事、係当番、委員会活動などをより丁寧に行うことが必要だという意見に賛成します。

12 野口
(三班)

私も今までどおりやるべきことを丁寧にしていくことに賛成です。自分の仕事をしない人がいるのが心配です。(C)、受験などがあり、できない人もいると思うので、お互いの状況を考えて、できないときは助け合っていくことが必要だと思います。この学級で良かったと言って卒業したいです。

13 遠藤
(二班)

野口さんの言うように、やるべきことを丁寧にするには、学級目標である「思いやり」が大切だと思います。「挨拶をし合う」ことも入れて思いやりを忘れず、お互いやるべきことをやって、卒業式を迎えられればいいです。レクリエーションは、皆の様子を見ると無理だと思います。「最高の卒業式を迎えるためにどうするか」は、次でぜひ考えてほしいです。

14 石村
(司会)

次に話し合いたいことも出してもらいました。今日は、「この時期に大切にしたいこと」として「思いやりの心を忘れずに、挨拶、係当番、委員会活動などを当たり前にする」ことになりました。みんなが意見を出してくれたので、これからの課題についての話し合いができました。次回は「良い卒業式を迎えるためにどうするか」について話し合っていきたいと思います。

1 空欄 (A) (C) にあてはまる言葉の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|-----|
| ① | A | しかも | B | なるほど | C | では |
| ② | A | なぜなら | B | では | C | ただ |
| ③ | A | その上で | B | やはり | C | そこで |
| ④ | A | それから | B | では | C | だから |
| ⑤ | A | しかも | B | やはり | C | つまり |

(2) この話し合いでは、最後に司会が「みんなが意見を出してくれたので、これからの課題についての話し合いができたと思います。」と言っている。有意義な話し合いにするために、それぞれの発言で司会者や発言者が果たしている役割として適切ではないものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① ⑤ (原) は、互いの考えを伝え合うことを重視し、まず少人数で話し合い、できるだけ多くの意見を出す方向に進めようとしている。
- ② ③ (小川) は、前の発言者の意見を受け止め、自分の考えを述べながら、全体の話し合いに必要なことを提案している。
- ③ ⑩ (石村、司会者) は、全員の提案や意見などを整理し話し合いの進行を工夫しており、みんなの意見を聞き、考えや意見を広げたり深めている。
- ④ ② (山浦) は、前の発言者の意見に同意し、学級の現状を考えた上で話し合いの重要性を訴えている。
- ⑤ ⑬ (遠藤) は、話し合いの内容をよく聞き、内容の共通点や現状を考え、課題解決に向けて皆の意見や考え方を生かそうとしている。

38

(3) 担任の教師がこの話し合いの最後に助言をした。この話し合いに対する助言として適切ではないものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① 学級の人たちが学級の課題を考え、課題を解決していこうとする姿勢があることが、今回の話し合いにつながっていると思う。これからもこの姿勢を持ち続けてほしい。
- ② この学級には、一人一人の意見や考えを尊重しようとする態度があるので、人の意見や考えを大切にしている話し合いができています。このことが素晴らしい。
- ③ 途中で、提案としてまず班で話し合い、できるだけ多くの意見を出し合ったことで、多くの生徒が意見を出せる機会をつくることができた。
- ④ 班で話し合うだけではなく、さらに工夫をして、となりの班と合同で意見交換をしたことも良い方法であった。
- ⑤ 学級目標「思いやり」を意識し、卒業まで実行しようとすることは、互いに助け合い支え合うことになり、良い学級を全員で作ろうという態度が見られる。

39

【6】 太田さんの学級では、それぞれのグループで調べたことをもとにスピーチをすることになった。太田さんは、「言葉の使い方」についてテーマを立てて、参考となる資料を集めた。

一 次に示す二つの資料は、それぞれ「資料A…言葉の使い方に対する意識」と「資料B…どのように気を使っているか」についてである。この二つの資料から読み取れるものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

資料A

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

資料B

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- ① 資料Aを見ると、言葉の使い方で「気を使っている（計）」の割合は、平成9年度から令和6年度にかけて一貫して増加している傾向にあり、特に平成23年度から令和4年度の増加幅が最も大きいといえる。
- ② 資料Aから、言葉の使い方の方の意識において、「非常に気を使っている」の割合は、平成23年度調査で最も多く、意識の変化の要因として、人口の減少と、言葉の乱れに対する若年層の意識の高まりと考える。
- ③ 資料Bでの「差別や嫌がらせ（ハラスメント）」と受け取られかねない発言をしない」ための配慮意識の高まりと広がりによって、資料Aの令和6年度の調査で、言葉に「気を使っていない（計）」と答えた割合も、全体の二割を下回ってきたと考えられる。
- ④ 資料Bから、どのように気を使っているかについては、具体的な内容を見ると、直接的な対人関係よりも、インターネットでの配慮の方が高い割合を示しており、資料Aの言葉の使い方に対する意識（全体）からも分かるように、現代社会におけるコミュニケーションの場の変化が明確に反映されている。
- ⑤ 資料Bから「改まった場で、ふさわしい言葉遣いをする」ことへの配慮は八割を、「敬語を適切に使う」が七割を超えており、多くの人が公的な場でのコミュニケーションに気を使っていることが分かる。場面によって言葉の使い方に対する意識に大きなちがいがいることが示されている。

二 次に示すのは、太田さんが資料A・Bをもとに考察した内容をスピーチとしてまとめたものである。次の問いに答えよ。

【スピーチ】

資料Aを見てください。これは、言葉遣いに「気を使っている人」の割合が、過去30年近くでどのように変化してきたかを示しています。(中略)では、人々は具体的にどんなことに気を使っているのでしょうか。次の資料Bを見てください。上位には、「改まった場で、ふさわしい言葉遣いをする」や「敬語を適切に使う」といった形式的なマナーが並んでいます。この結果から、私たちは、「社会的なルール」を大切にして言葉を使っていることが分かります。こうした礼儀としての意識を、言葉の「重さ」と呼びたいと思います。

言葉遣いが丁寧になること自体は良いことですが、誰もが「正しさ」という「重さ」ばかりを気にしすぎると、少し息苦しくて、きゅうくつな社会になってしまうかもしれません。

そこで、私は、ア

例えば、「日本語を母語としない人と適切に意思疎通を図る」ことへの配慮は、13・7%に留まっています。また、「外来語・外国語などを使いすぎない」や「方言を大切にする」といった項目も低い割合です。これらは、自分とは異なる背景を持つ相手や、多様な文化に目を向ける意識であり、私は大切だと考えています。

私たちは、形式的な「重さ」に強く気を使っている一方で、多様な人々とつながるための「広さ」には、まだ十分な意識が向いていないのではないのでしょうか。国際化が進む今、多様な人々を結びつけるために、言葉の捉え方を広げていく必要があるのです。

(1) スピーチのアにあてはまる内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

- ① 言葉の「重さ」というマナーを守るだけではなく、多様な相手とつながるための言葉の「広さ」にも、もっと意識を向けるべきと考えます。
- ② 現代のコミュニケーションにおける最大の課題である「ネット上での感情的な発言」を、法律によって厳しく規制していくべきと考えます。
- ③ 多くの人が言葉に気を使うようになった今、これ以上の配慮は不要であり、もっと自由に発言できる環境を作るべきと考えます。
- ④ 言葉の「広さ」を十分に理解した上で、これまでの伝統的なマナーである「重さ」をより一層厳格に守っていくべきと考えます。
- ⑤ 礼儀としての「重さ」は重要だが、それよりも情報の伝達スピードを重視した、効率的な言葉の「広さ」を追求すべきと考えます。

(2) 資料 A・B は、太田さんの主張を支えるためにどのように使われているか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- ① 資料から読み取れる「若者の言葉の乱れ」と「ネット利用者の増加」を提示することで、SNSにおける正しい言葉遣いの重要性を強調している。
- ② 資料から読み取れる「言葉への意識の高まり」と「配慮がマナー面に偏っている現状」を提示することで、多様な相手への意識（広さ）の必要性を強調している。
- ③ 資料から読み取れる「敬語を使える人の減少」と「外来語の氾濫」を提示することで、伝統的な日本語を守る活動の必要性を強調している。
- ④ 資料から読み取れる「語彙力の低下」と「コミュニケーション不足」を提示することで、学校教育における国語学習の時間を増やすべきだと主張している。
- ⑤ 資料から読み取れる「日本人の礼儀正しさ」と「国際交流の活発化」を提示することで、現在のマナーが世界に通用することを肯定的に主張している。

【7】 中学校の書写の指導について、後の問いに答えよ。

一 次は、「中学校学習指導要領解説 国語編」(平成二十九年七月 文部科学省)における「第3章 各学年の内容 第1節 第1学年の内容 1 (知識及び技能) (3) 我が国の言語文化に関する事項 ○書写 (ア)」に関する記述の一部である。文章中の空欄 (A) (B) (C) にあてはまる言葉の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解するとは、書こうとする文字の字形を整えること、紙面全体に対してそれぞれの文字の大きさや書くべき (A) を考えて調和的に割り当てること、文字と文字との間の空け方や行の (B) の取り方、行と行の間の空け方などについての具体的な方法や効果を理解することであり、実際に文字を書く場面で使えるようにすることが重要である。

小学校で段階的に学習してきた字の形や大きさ、配列などに関する指導事項を踏まえ、「思考力、判断力、表現力等」の指導との関連を図り、国語科をはじめとする各教科等の学習や生活における活用場面を見通して、学習活動や (C) を工夫することなども大切である。また、筆記具についても、硬筆や毛筆などを適切に選択したり組み合わせたりすることが求められる。

- | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|
| ① | A | 位置 | B | 間隔 | C | 道具 |
| ② | A | 場所 | B | 中心 | C | 教具 |
| ③ | A | 内容 | B | 間隔 | C | 道具 |
| ④ | A | 場所 | B | 空間 | C | 教材 |
| ⑤ | A | 位置 | B | 中心 | C | 教材 |

二「中学校学習指導要領解説 国語編」(平成二十九年七月 文部科学省)における「第2章 国語科の目標及び内容 第2節 国語科の内容 2(知識及び技能)の内容(3) 我が国の言語文化に関する事項 ○書写」に関する記述の一部である。文章中の空欄(A)～(C)にあてはまる言葉の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

ここに示す内容を理解し使うことを通して、各教科等の学習活動や(A)に生かすことのできる書写の能力を育成することが重要となる。特に、我が国の伝統的な(B)を継承し、これからの社会に役立つ様々な(B)に関する「知識及び技能」について理解し、文字を(C)書くことができる力を育成することが大切である。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|
| ① | A | 日常生活 | B | 精神文化 | C | 効果的に |
| ② | A | 社会生活 | B | 言語文化 | C | 能率的に |
| ③ | A | 日常生活 | B | 文字文化 | C | 効果的に |
| ④ | A | 学校生活 | B | 文字文化 | C | 効率的に |
| ⑤ | A | 家庭生活 | B | 言語文化 | C | 効率的に |

【8】 学習指導要領について、後の問いに答えよ。

一 次は、「中学校学習指導要領解説 国語編」(平成二十九年七月 文部科学省)における「第2章 第2節 国語科の内容 2 (知識及び技能)の内容 (2) 情報の扱い方に関する事項 ○情報と情報との関係 ○情報の整理」に関する事項である。空欄 (A) ～ (C) にあてはまる言葉の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

○情報と情報の関係

第1学年

ア 原因と (A)、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。

第2学年

ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。

第3学年

ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。

○情報の整理

第1学年

イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、(B)の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。

第2学年

イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。

第3学年

イ 情報の (C) の確かめ方を理解し使うこと。

①	A	結果	B	要約	C	正確性
②	A	結果	B	引用	C	信頼性
③	A	動機	B	要約	C	信頼性
④	A	理由	B	要約	C	正確性
⑤	A	動機	B	引用	C	客観性

二 次は、「高等学校学習指導要領解説 国語編」(平成三十年七月 文部科学省)における「第1章 総説 第4節 国語科の内容 2 (知識及び技能) の内容 (3)我が国の言語文化に関する事項 ○伝統的な言語文化」の記述の一部である。空欄(A)～(C)にあてはまる言葉の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選んで、番号で答えよ。

言葉文化の特質や、外国の文化との関係については、「言語文化」では、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること、「(A)」では、文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めること、「(B)」では、古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることを示している。

作品や文章の歴史的・文化的背景、必要な(C)や訓読のきまり、古典特有の表現などについての理解については、「言語文化」では、古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること、古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な(C)や訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること、「(B)」では、古典を読むために必要な(C)や訓読のきまりについて理解を深めることを示している。

- | | | | |
|---|--------|--------|----------|
| ① | A 国語総合 | B 古典 | C 和歌の修辞 |
| ② | A 文学国語 | B 古典 | C 文語のきまり |
| ③ | A 文学国語 | B 古典探究 | C 文語のきまり |
| ④ | A 国語総合 | B 古典探究 | C 文語のきまり |
| ⑤ | A 国語総合 | B 古典探究 | C 和歌の修辞 |

